

内田地区の状況

地域づくりセンター長から見た内田地区の特色

2023年1月20日（金）市長と住民の「こんだん会」資料

内田地区地域づくりセンター

説明項目

- ①地区概要
- ②地区・町会のシステム
- ③内田地区の公共交通
- ④集落営農
- ⑤内田地区の人口構造と変化

①地区概要-(1)

- 昭和35年に塩尻市と松本市との間の境界変更により松本市へ編入
- 人口・世帯数（R5.1.1現在）
人口 2,311人、世帯数 997世帯
※人口は、市内35地区中、多い方から数えて30番目
- 高齢化率（R5.1.1現在）
30.9%（松本市全体は28.3%）
- 町会数
9町会
- 町会名は第1町会から第9町会まで、数字付番の名前
- 土地区画整理事業による人口増加に伴い、第7町会は平成4年に、第8町会は平成7年に、それぞれ第3町会から分離して成立。第9町会は平成8年に第2町会から分離して新たに成立

①地区概要-(2)

●独自の伝統文化①

○国指定文化財

市内の地区で国指定の重要文化財が最も多い。

馬場家住宅、牛伏川本流水路、牛伏寺の8体の仏像



①地区概要-(3)

●独自の伝統文化②

- 「**内田のササラ踊り**」と「**内田のおんべ祭り**」は共に市の重要無形民俗文化財で、特に「ササラ踊り」は市内他地区にはない独自の伝統文化として、地区で保存会を設けて保存・継承活動している。



①地区概要-(4)

●レジャー施設

槍、穂高、白馬三山を一望にできる標高1000メートルの高原
コースをもつ松本カントリークラブ
毎年、地区で親睦ゴルフコンペを行っている。



①地区概要-(5)

●塩尻市と境を接していることによる特色①

○塩尻市片丘南内田との地域的一体性

▼「ササラ踊り」「おんべ祭り」は、両内田で行われている。

※松本市内で行われている「青山様」「ぼんぼん」はない。

▼鉢伏神社例大祭は両内田の共同参加で行われている。

▼長野県両内田土地改良区の組織が存在する。また、内田地区内の田畑を借りて耕作している南内田住民もいる。

①地区概要-(6)

●塩尻市と境を接していることによる特色②

○塩尻市のコミュニティバスの乗り入れ

▼**塩尻市地域振興バス「すてっぷくん」**には、松本市内に乗り入れている路線が2本ある。

▼そのうち1本が内田地区内を経由して再び塩尻市内の老人福祉施設「百寿荘」に至る「片岡線（百寿荘経由コース）」

※もう1本は松本医療センターを折り返し点とする「塩尻北部線」で、同センター以外のバス停は松本市内にはない。

▼当該路線には内田地区内に2か所の停留所がある。

※塩尻市在住の当出張所職員は時々これを利用して通勤することがある。

①地区概要-(7)

●松本市への編入の経過

旧片丘村の一区域であった内田地区（旧北内田区）は、「昭和の大合併」の際に松本市への編入を希望し、県の勧告による旧塩尻町との合併を拒絶。

旧片丘村議会が旧塩尻町との合併を議決すると、旧北内田区民は区民大会を開催して自治村結成を宣言。塩尻市成立後は同市への納税拒否などで抵抗。

その後、県の町村合併調停委員会の調停案を受け入れ、住民投票により自らの帰属先を松本市とする意思表示をし、塩尻市への編入の1年後の昭和35年に松本市に編入された。

②地区・町会のシステム-(1)

●意思決定システム

○町会連合会には、常任理事会、理事会、**代議員会**がある。常任理事は各町会長、理事は各町会2人、代議員は各町会から概ね10世帯に1人の人数で選出される。(令和3・4年度61人)

○理事会は総会(代議員会)に付議する事項を評議する。

○総会(代議員会)は**地区最高の決議機関**となっている。代議員、理事、常任理事で構成されるが、代議員以外は議決権がない。

○代議員制を採用している地区は、内田を含め市内に3地区だけ。ただし、内田以外の2地区は、理事等にも議決権がある。本来的な代議員制は内田地区だけ。

②地区・町会のシステム-(2)

- 地区・町会役員のほぼ全ては2年ごとに改選されている。
- 令和4年度は任期2年目で、令和5年4月1日から新体制となる。
- 役職によっては次期役職がコースで決められているものもある。
2年間の活動で人間関係を築いたメンバーで次期役職を担う。

○現町会長

- ➔ 次期内田体育館避難所運営委員会会長及び各班長

○現町内公民館長

- ➔ 次期内田公民館避難所運営委員会会長及び各班長

③内田地区の公共交通-(1)

●**アルピコ交通バス内田線**（寿台東口から倉村までの間の運行は松本市がアルピコ交通に補助している）

●過去に路線廃止も検討された。

●平日1往復のみ（土日休日は運行なし）

○下り

松本バスターミナル 9:00発 ➡ 倉村 9:29着

松本バスターミナル15:30発 ➡ 倉村15:59着

○上り

倉村 9:38発 ➡ 松本バスターミナル10:04着

倉村16:08発 ➡ 松本バスターミナル16:34着

③内田地区の公共交通-(2)

●乗車料金

松本バスターミナル・倉村間 片道540円

●路線存続に対する内田地区の取組み

○アルピコ交通バス内田線特別企画乗車券

内田線の利便性と利用者数の向上を図るため、往復乗車チケットを地域づくりセンター窓口にて割安で販売

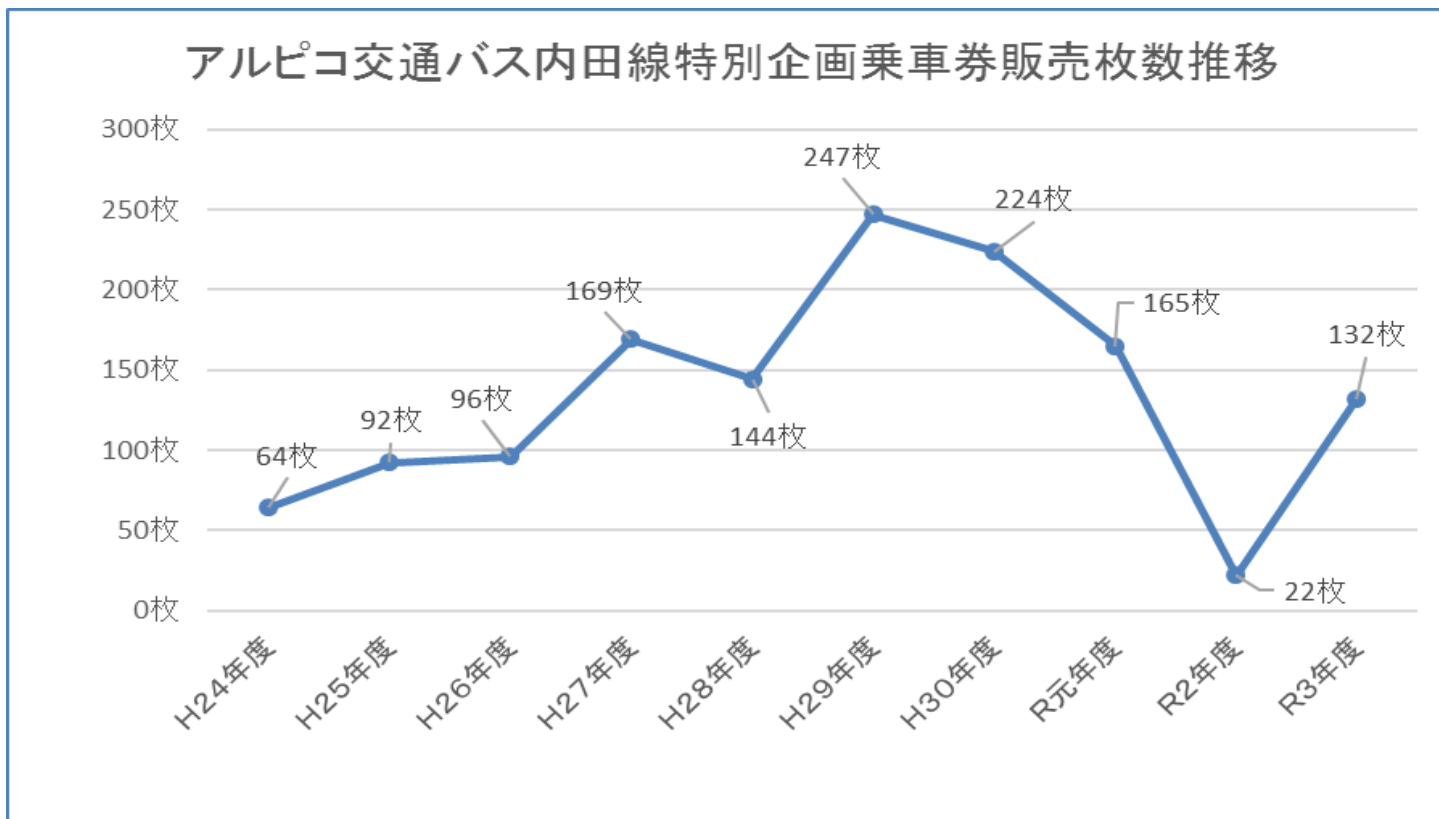
○通常料金では1往復1,080円。同チケットだと1往復400円で乗車できる。

○本制度はアルピコ交通との協議で1往復を784円と設定

○チケット販売額との差額384円は内田地区町会連合会が負担

③内田地区の公共交通-(3)

●内田線特別企画乗車券の利用状況



令和2年度の販売数の大幅な減少は、コロナ禍による外出自粛の影響と推測する。

③内田地区の公共交通-(4)

●チケット利用の取組み

地区公民館と地区福祉ひろばが、それぞれチケットを利用した市街地散策のウォーキングイベントを開催。「景観賞受賞作品めぐり」や「松本市美術館での芸術鑑賞」を実施



③内田地区の公共交通-(5)

●チケット利用イベントの課題

市街地地区との間で内田線を使って行き来する共催企画ができないか検討したが、実現できなかった。

●実現できなかった要因

内田地区内に観光資源や移動手段がない。

内田線を利用したイベントは、内田地区から市街地に行く場合には観光資源や飲食店が数多くあり滞在時間を長くできるが、市街地地区から内田地区に来た場合には、帰りのバスの時刻まで、**長時間の滞在に耐えられる観光資源・飲食店・地区内の移動手段がない。**

何か良いアイディアはないでしょうか…

④集落営農-(1)

- 高齡化、後継者不足、農業機械の高額化、耕作放棄などの課題に対して、農業生産の一部あるいは全部を集落単位で効率的に実施し、課題に対応するもの
- 内田地区では、平成18年4月に農家が共同で**農事組合法人内田営農**を設立し、集落営農の対応開始。
- 組合員数は230人
- 事業面積
 - 水田 50.1ヘクタール
 - 畑 27.2ヘクタール

④集落営農-(2)

- 人員は33名（労働対価の支払いは従事分量配当制）

<内訳> 作業従事者31名（オペレータ23人）
事務従事者2名。
性別は男性21名、女性10名

- 松本市で地区全体をカバーしている集落営農法人は内田営農のみ。大型農業機械の保有も市内で最も多い。地区内で活動する農業経営体の中では最大規模の中心農業経営体で住民生活への影響力が大きい。

④集落営農-(3)

- 内田地区の美しい田園風景は地区の財産。
内田営農の存在により遊休荒廃農地が少なく、景観が保たれているという側面が強いと思われる。



④集落営農-(4)

●課題

高齢化、後継者不足への対応のための集落営農であるが、組織内に若い従業者が少なく、内田営農のオペレータの高齢化が進んでいる。

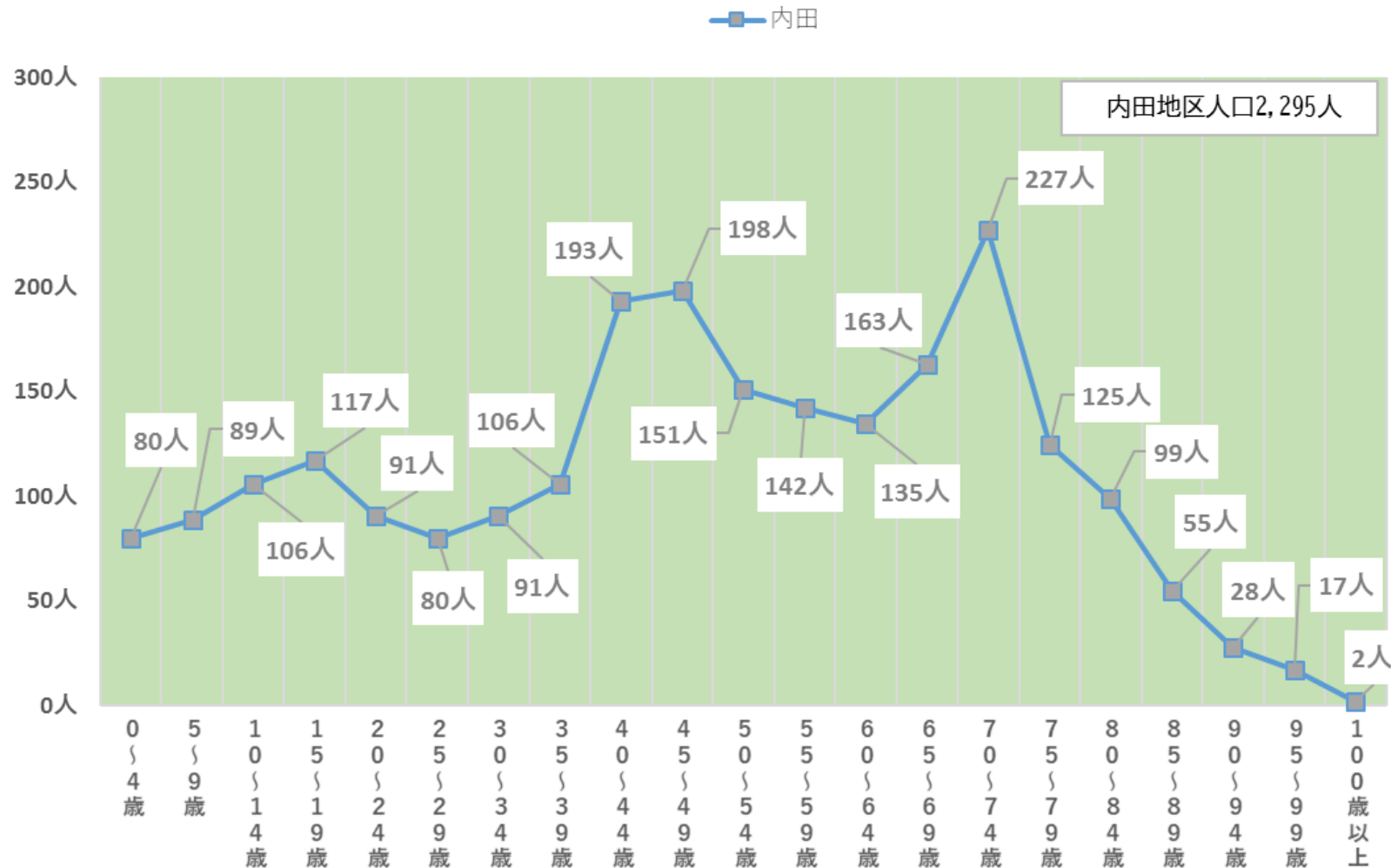
➡新規の農地借入や作業の引受けが難しくなりつつある。

5年後、10年後の内田の農業はどうなるのか…

■内田地区の農地が減少すれば、土地の保水力などが低下し下流域にも影響が出るかも…

⑤地区の人口構造と変化-(1)

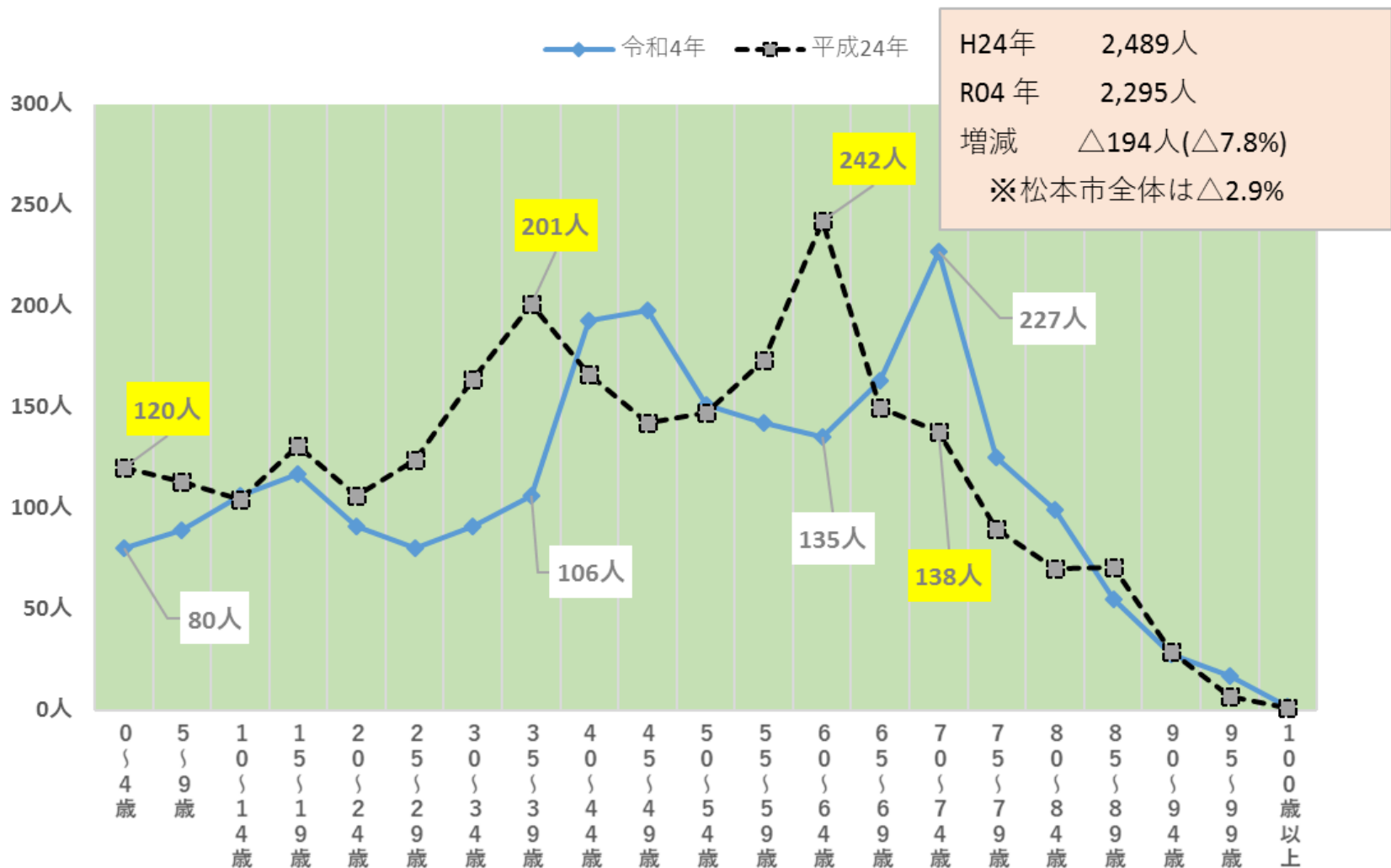
内田地区比較 年齢階級（5歳）別人口推移（R4.5.1現在）



- 令和4年5月1日現在の内田地区の人口を5歳ごとにまとめてグラフ化したもの
- 総人口は2,295人
- 最も多い年齢層は70歳以上74歳までの「団塊の世代」に概ね該当する

⑤地区の人口構造と変化-(2)

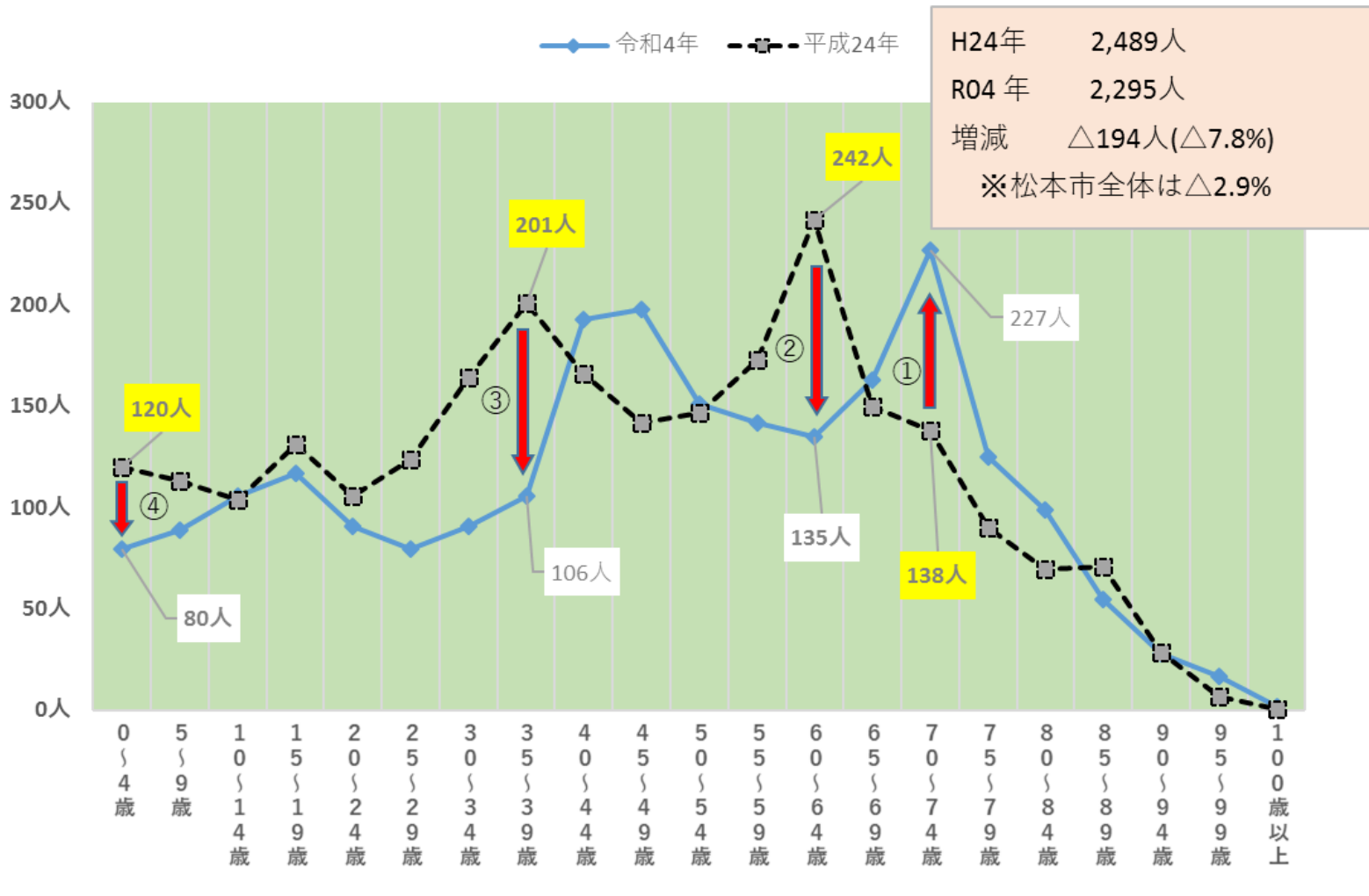
内田地区年齢階級（5歳）別人口推移（各年5月1日現在）



- 平成24年と令和4年のデータを並べて10年間の変化を見るもの
- 折れ線の形状は概ね同じまま、2列右側に移動する。
- 平成24年の内田地区の人口は2,489人、令和4年は2,295人で、10年間で**194人の減少**
- 内田地区の減少率（ $\Delta 7.8\%$ ）は松本市全体（ $\Delta 2.9\%$ ）よりも**4.9ポイント（約2.7倍）高い。**

⑤地区の人口構造と変化-(3)

内田地区年齢階級（5歳）別人口推移（各年5月1日現在）



- ①70歳以上74歳まで
138人→227人
【89人 (64.5%) 増】
→今後の後期高齢者の急激な増加
- ②60歳以上64歳まで
242人→135人
【107人 (44.2%) 減】
→定年退職後の、時間に比較的余裕のある年齢層が今後10年少ない。
- ③35歳以上39歳まで
201人→106人
【95人 (47.3%) 減】
→成人期前半世代の少数化が始まる。
※25歳から39歳までの減少数合計は212人
- ④0歳から4歳まで
120人→80人
【40人 (33.3%) 減】
→今後妊娠出産する30歳以下の人口が減っているため、以前の水準まで戻することは現状では難しい。

⑤地区の人口構造と変化-(4)

75歳以上の要支援・要介護認定率

R4. 12. 1現在

区分	75歳以上人口	要支援認定者数	要支援者認定率	要介護認定者数	要介護者認定率	要支援・要介護比率
	A	B	C=B/A	D	E=D/A	F=(B+D) /A
松本市	38,010人	3,436人	9.0%	6,863人	18.1%	27.1%
内田地区	336人	34人	10.1%	57人	17.0%	27.1%

内田地区では…

- 75歳以上になると**要支援者認定率** (C列) は**5倍弱**(2.1%→10.1%)
要介護者認定率 (E列) は**9倍強**(1.8%→17.0%)に増加する。

65歳以上75歳未満要支援・要介護認定率

R4. 12. 1現在

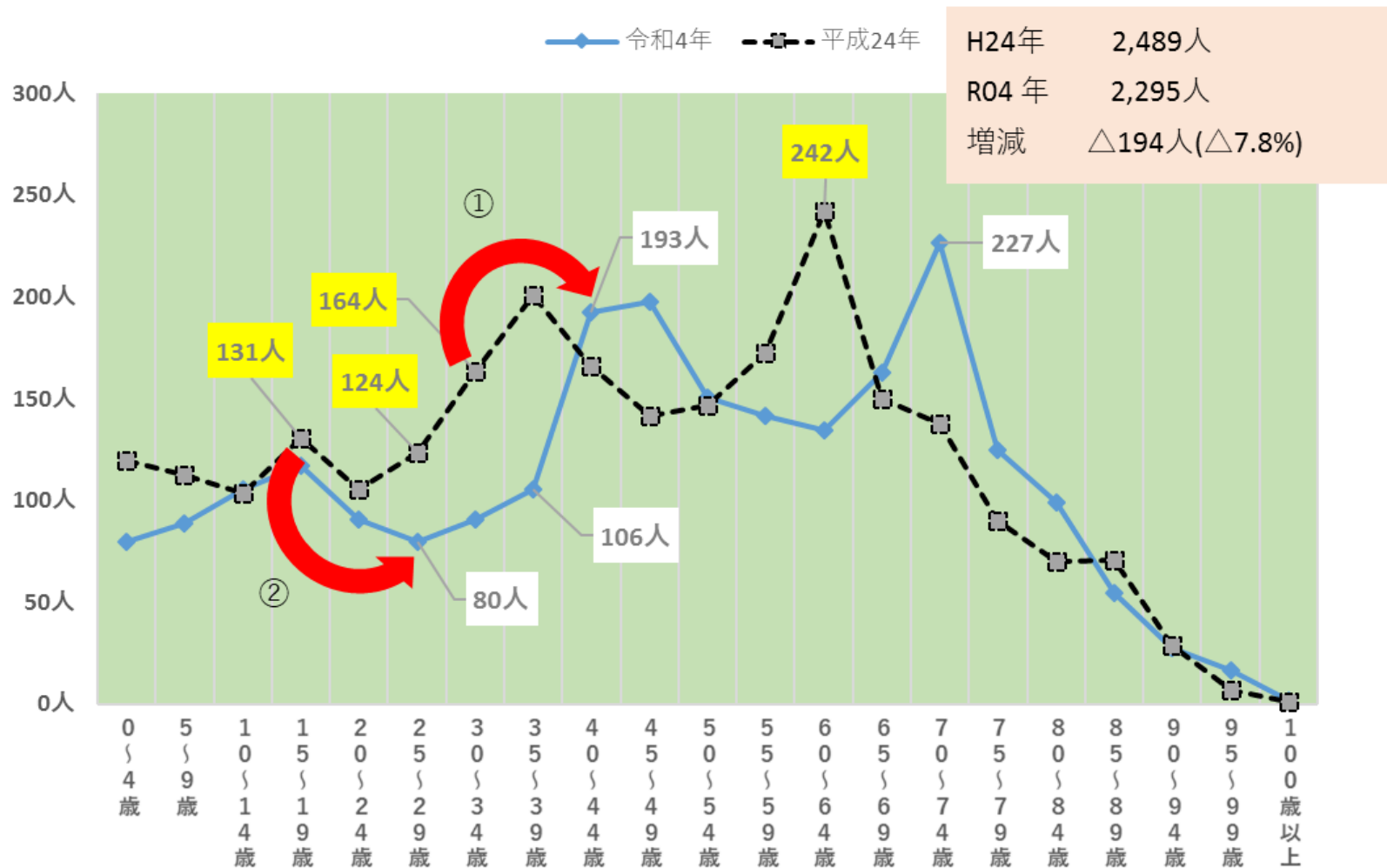
区分	65歳以上75歳未満人口	要支援認定者数	要支援者認定率	要介護認定者数	要介護者認定率	要支援・要介護比率
	A	B	C=B/A	D	E=D/A	F=(B+D) /A
松本市	29,053人	400人	1.4%	562人	1.9%	3.3%
内田地区	382人	8人	2.1%	7人	1.8%	3.9%

- 要支援者認定率** は、松本市全体よりも**高い**。
- 要介護者認定率** は、松本市全体よりも**低い**。

松本市高齢福祉課の抽出データをもとに作成

⑤地区の人口構造と変化-(5)

内田地区年齢階級（5歳）別人口推移（各年5月1日現在）



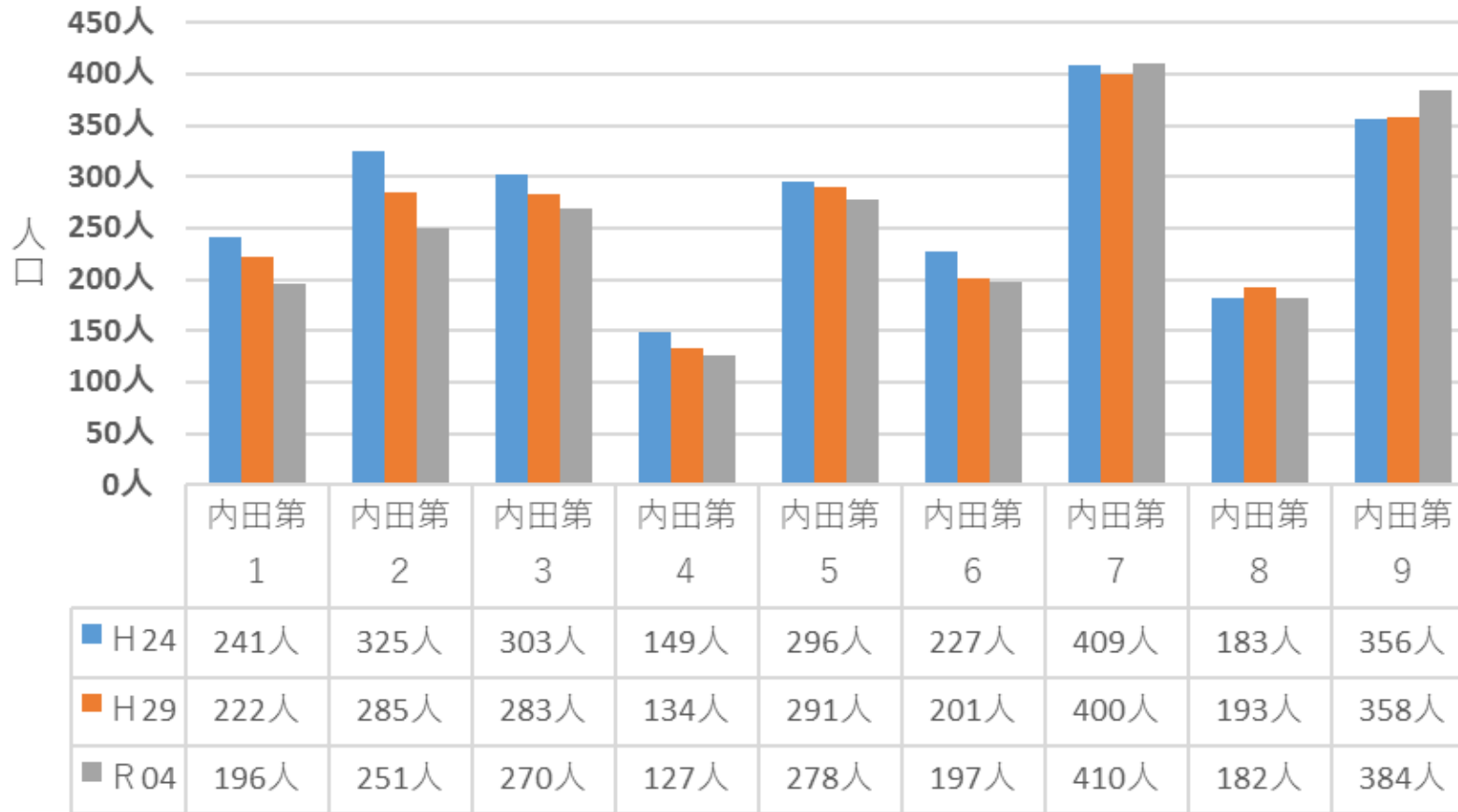
①10年前に30歳以上34歳までの人の現在 164人→193人
 【29人（17.7%）増】
 ほぼ唯一の顕著な増加。
 主として第9町会への転入ではないか。

②10年前に15歳以上19歳までの人の現在 131人→80人
 【51人（38.9%）減】
 主として転出と考えられる。

※成人期前半の人（10年前に15歳以上29歳までの人）の現在 361人→277人
 【84人（23.3%）減】
 成人期前半の減少数212人のうち84人（約4割）は転出によるもの

⑤地区の人口構造と変化-(6)

内田地区町会別人口推移（各年5月1日現在）



- ①第1町会から第6町会までは農家の多い農村地域であるのに対し、第7町会から第9町会までは農家がほほない住宅地域
- ②第7町会から第8町会までの人口の推移はほほ横ばい、第9町会は増加傾向であるのに対し、第1町会から第6町会までは減少傾向がみられる。

※内田地区の人口減少は農村地域で起こっている。

本日の懇談者

- これからも地区の高齢化は進行し、人口減少にも歯止めがかからないかもしれません。
- 内田地区の人口減少の着目点「成人期前半層」「定年退職後」「農村地域」の3点から見て、人口減少の影響をより大きく受けると思われる農業組織と住民自治組織に参加をお願いしました。
- 悲観的にだけとらえるだけではなく、前向きにとらえる考え方があるのかを含めて懇談をいただけたらありがたいと思います。